世田谷村日記

石山修武

十二月二七日

午前中大学へ。熊谷組横浜支店長来室。年末のあいさつだが、ゼネコンは大変だろうと察する。しかしながら単純極る真理があって、ドン底の時に径を拓く者が次代を造る。変革期には当事者はその実感が薄い。実感などと言うものはいつも想像力がつくり出すものなんだろう。モノから作り出される、あるいは出来事状況が作り出す実感（リアリティ）などと言うモノは無い。それに対する私たちの想像力がリアリティという観念を構築している。瞬時の連続の中で。ウーム。何となく年末だ。我ながら臭いことを言ってる。昔小林秀雄が花の美しさとやらについて述べたスタイルだコレワ。年末感は不思議に人間を底の浅い哲学者風にしてしまう。私の人生も年末にならぬよう注意したい。

ＧＡ54号が送られてきて、私のヘレンケラー記念塔が出ていた。案の定内部の写真が良かった。それはともかく、鈴木伊東が対談していて、俺のことを建築原理主義者だと決めつけている。修武ビンラディンとかオサマラン石山だとか、いいように楽しんでやがる。鈴木はポルポトで伊東は世阿弥なくせに、そんな異人達から楽しまれたくないぜ。彼らこそ巧妙きわまるセオリストなのだ。しかし時間がたっぷりあって今日はＧＡを隅から隅まで読んだ。建築は今、どん底である。当事者である我々はまだそれを充分に知らない。しかし氷河期にも生き抜いた種があることを肝に銘じよう。建築家は絶滅寸前の恐竜みたいなものだろう。しかし、簡単に絶滅させてはチョッピリもったいない種であることも確かなんだろうと、いささか解ってきた。簡単な希望を言う愚かさは避けねばならないが、生き延びる方策について、来年は少しばかり演じ、しゃべる必要がある様だ。書き散らした駄文が活字になって幾つか送られてきた。本当に恥ずかしい。こんな事書き散らしていては私の明日はないだろうと殊勝に反省はするのだが、多分好きなんだろう駄文を書き散らすのが。まったくどうなる事やら。

中里和人が松浦武四郎の一畳敷の小屋を見つけてきた。簡単な資料がＦＡＸで送られてきたのだが、一読これは面白いモノだと感服した。探検家武四郎の桁外れに知的な面を良く表している小屋だと思う。極北の小屋かも知れないコレワ。すぐにも取材に行きたいと思ったのだが、その小屋があるＩＣＵが冬休みに入ってしまって不可能との事。残念だ。松浦武四郎の人生そのもの旅＝探検であったことが実に知的に表現されているもので、コレワいいぞ絶対に。年明けに必ず見よう。

先日結婚した高木正三郎の父親高木栄三郎氏よりごていねいな便りと、いただきものが届いて、恐縮してしまう。義理固い家系なんだ。高木もゆっくり成長しているようで心配はしていないが、他人の数倍今は勉強してもらいたいと思う。チャラチャラした作品みたいなモノなんか作らなくても良い。本格的な勉強を積み重ねて欲しい。三〇代とはそういうものだ。すぐに建たなくとも良い。本格的なプロジェクトを作成して、それを本格的に自己解析する才を今のうちに育てておく必要があるのだ。誰に見せるでもない、自分の内に分厚く積み重ねておけば良いのだ。それが無い奴は必ず消えてゆくよ。

十二月二八日

屋上菜園の北側に木のサクを作った。土ぼこりが隣家に飛ばぬためのものだが、良い目隠しにもなって、菜園にいる一人の時間がより濃密なものになった。アロエやブーゲンビリヤの霜よけにもなるだろう。午後渡辺邸現場。鉄骨工事は終了していた。世田谷と同じような家なので屋上が良い。内部に壁柱がないのを最後までどう生かせるか。いよいよ来年は渡辺ファミリーとのセルフビルドが始まる。子供三人に何をやってもらうかが楽しみだね。

十二月二九日

九州宮本さんの家の考え方がまとまり始めたので電話しておこうかな。待ちかねていると思うから。朝九時五〇分日暮里駅待ち合わせ。スタジオボイス取材。谷中の路地を歩いて二階建の少しくたびれた風のアパートへ。急な階段を登り、廊下を曲がり、小さな部屋に辿り着く。ムラタ有子さんを訪ねた。一人暮らしの女性画家。何も無い部屋。マイナスしている室内。この女性は感覚的に現代の日本の構造、というよりも構造のあり得ない構造のようなものを上手くとらえていると思った。大竹伸郎のファンらしいがそれを言う事のアッケラカンさが不思議だ。文章作家だったら川上弘美の感じ。当代の流行のアーティストのほとんどは怪しいのだぜ。ムラタ有子さんの部屋についてはスタジオボイス２月号を読んでいただこうか。今日は書けぬから、明日書いてみよう。生きるエネルギーを０（ゼロ）に近づけてゆくようなライフスタイルなんだ。いかにも今風である。日本には居たくないと言うのも良かった。淡々とした部屋で淡々とした女性だった。墓地に面したアパートはつげ義春の李さん一家を思い起こすが、あの泥くさいシュールレアリズムはこのアパートにはない。生身な感じが全て脱色脱臭された風がある。何処にも臭いが無い。取材後天王台の酔庵へ。佐藤健との恒例の忘年会。千村君が来ていて勝新の兵隊やくざを見せられていた。可哀想に。今年は泊まらずに八時頃失礼した。馬鹿な事をして楽しむというのもお互い卒業したのかも知れぬ。真栄寺の馬場昭道とも会えた。佐藤健もきっと一人で本を読みたいのだろうと思ったこともある。

十二月三〇日

カンボジアＪＥＴＲＯ仲根さんより電話。明日午前中に何処かで会いましょうという事になる。一月六日よりプノンペンだが「ひろしまハウス」もようやくカンボジア日本人会、大使館が関心を持ってくれるようになった。この流れを逃さないようにしたい。二〇〇二年５月に上棟式のようなセレモニーをしたいと考えているのだが、それを機会にもっと世界の人々に知ってもらう方法を考えたい。今度のプノンペン行は現地で大使館、日本人会その他色んな人に会う必要があるな。十七時中央林間で近藤理事長と待ち合わせ。駅近くの森を歩く。すでに陽は落ちて暗闇だったが面白かった。一人で秩父の山に野宿した事もあったな。あの頃はセンチな少年だった。今は森の闇におののいたりはしない。きちんと鈍くなっている。この森に保育園をはじめ、様々な何かを作ってゆこうというのが近藤さんの考えだ。十八時南林間の料理屋で地主の古木さんと会食。森の学校みたいなのを考えてみようと決めた。ツリーハウスを作ったのがようやく陽の目を見る可能性がある。

十二月三一日

朝、世田谷村に走駒、鶴と二双の掛軸をかける。片山南風の掛

軸も出てきた。家内の亡くなった母の家が熊本では旧家だったので、何やらゴロゴロあったらしい。趣向という程のものではないが、少しばかり室内をデザインして何とか正月らしくなってきた。床の間のようなコーナーをいづれしつらえたい。

来年まずしたいのはホームページのスタイルを変えること。その編集によって私の仕事の全体がもう少し視えやすくしたい。

二〇〇二年の仕事のページを作り、今のＷＯＲＫのページを除去する。二〇〇二年は

(A)ＷＯＲＫ　ｆｏｒ　マイノリティ、①ツリーハウス　②十勝ヘレンケラー記念塔　③星の子愛児園　④ひろしまハウス　カンボジア　⑤聖徳寺霊園　⑥森の学校　これらの実現した建築、進行中の建築を一つのパースペクティブの枠で全体を構築する。現代っ子ミュージアムもこの枠に組み込んだ方が良いかも知れない。

(B)都市　①明治通りコンヴァージョン（展覧会の記録も含む）
②沖縄計画

(C)保存、再生　①松崎町蔵　②伊豆森文邸再生

(D)住宅　①世田谷村の進行記録　②渡辺邸　③藤井邸　④宮本邸

(E)プロダクツ　①セロリその他の家具の流通　②支援センター商品の開発と流通

(F)早稲田・バウハウス佐賀の展開と名称の変更。

(G)開放系技術論の進行

(H)作家論

(I)連載その他諸々の記事の取り組み。

日記から検索できるシステムも取り入れた方がよいかも知れない。

午後プノンペンの仲根さん来宅。ひろしまハウスの今後の事など話し合う。ひろしまハウスの建設運営は一種の市民運動だ。運動を良く持続させるためには清濁合わせ呑む許容力と、それでも最低限の理念を確認し続ける事が大事だ。二〇〇一年の仕事の終わりを「ひろしまハウス」の相談ですませた事は良かった。

夕方、正月休み（元旦だけ？）に読む本を買いにブラリと出掛けて、それで今年は暮れた。